



本日はご多忙の中、弊社説明会にご参加賜り、誠にありがとうございます。

また、平素より弊社のIR活動へのご協力に心より御礼申し上げます。

早速ではございますが、説明を開始致します。

当第2四半期決算説明会のトピックス

muRata
INNOVATOR IN ELECTRONICS



- 当第2四半期の売上高は、各市場においてCOVID-19からの部品需要の回復が早まったほか、スマートフォン向けの季節性もあり、モジュールやコンデンサなど幅広い製品で売上が増加。直前四半期比30.1%と大幅に増収。
- 上期の売上高は、リモートワークやオンライン教育向けの需要を背景にPC関連需要が増加したものの、自動車市場の不振により前年同期比1.2%の減収。

Copyright © Murata Manufacturing Co., Ltd. All rights reserved.

2

本日の説明会のトピックスでございます。

4月に公表致しました当年度の業績予想は、

新型コロナウイルスの影響として、感染拡大は上期中に収束し、下期から電子部品需要が回復に向かう、という前提でございました。

当第二四半期では幅広い市場で、部品需要の回復が見られ、直前四半期での落ち込みからの反動、スマートフォンの季節性による増加、が顕著でした。

しかし上期について、前年同期との比較では、自動車の生産台数減少が大きく、前年同期比では売上高が89億円減少致しました。

当第2四半期決算説明会のトピックス



- 上期の営業利益は、製品価格の値下がりなどの減益要因はあったものの、生産増加にともなう操業度益や前期に計上した減損損失の反動による固定費の減少などの増益要因により、前年同期比8.3%の増加、営業利益率は同比1.5ポイント上昇の17.5%。
- 通期業績予想については、部品需要の見直しを見直すとともに為替前提を変更。売上高は1兆4,900億円（4月予想比4.2%増）、営業利益は2,500億円（同比19.0%増）を見込む。

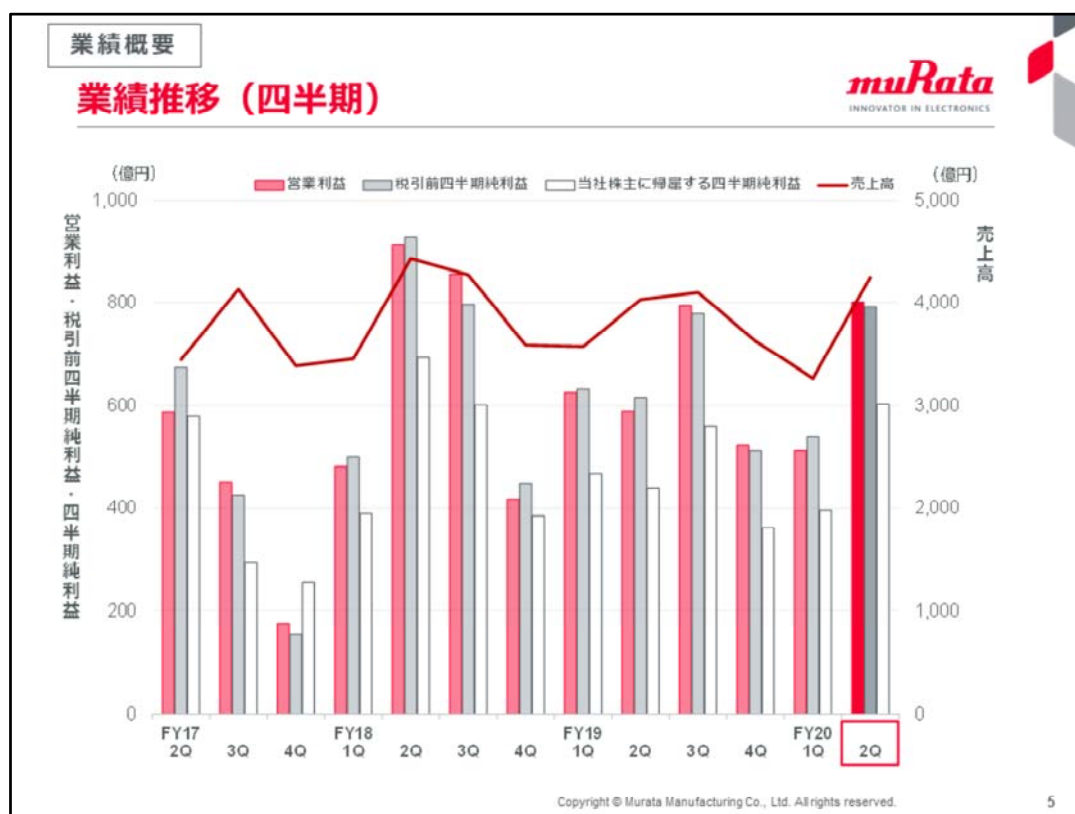
当初予想比では売上が増加しており、固定費の減少もあって、
上期の営業利益については、前年同期比で101億円の増加となりました。

このような状況から、10月23日には上期の業績予想を修正を公表致しました。

通期についても、上期の実績及び直近の市場動向を踏まえて、業績予想値の修正を行うことと致しました。



ここからは第二四半期、上期、の業績概要でございます。



四半期単位の業績推移でございます。

直前四半期比で、当四半期の売上高は984億円増加、営業利益が288億円増加、と、大きく増加致しました。

	2019年度		第1四半期		第2四半期		2020年度		直前四半期比		前年同期比	
	上期	(%)	(億円)	(%)	(億円)	(%)	上期	(%)	20Q2/20Q1	(%)	20年上期/19年上期	(%)
売上高	7,609	100.0	3,268	100.0	4,252	100.0	7,520	100.0	+984	+30.1	▲89	▲1.2
営業利益	1,214	16.0	513	15.7	802	18.9	1,315	17.5	+288	+56.2	+101	+8.3
税引前当期純利益	1,248	16.4	539	16.5	792	18.6	1,332	17.7	+253	+46.9	+83	+6.7
当社株主に帰属する当期純利益	907	11.9	396	12.1	603	14.2	999	13.3	+207	+52.3	+91	+10.1
為替 (円/USD)	108.63		107.62		106.22		106.92					

- 売上高は、直前四半期比では、カーエレクトロニクス向けでコンデンサなどの需要が増加したほか、スマートフォンの季節性もあり通信向けで樹脂多層基板やコネクティビティモジュールなどの需要が増加。PC関連及びAV機器向けも引き続き好調に推移したことで大幅に増収。
- 営業利益は、直前四半期比で、製品価格の下落や品質関連費用の計上といった減益要因はあったものの、生産高増加による操業度益とコストダウンにより、大幅な増益。
前年同期比で、2019年度第2四半期に計上した減損損失の反動による固定費減により増益。

Copyright © Murata Manufacturing Co., Ltd. All rights reserved.

6

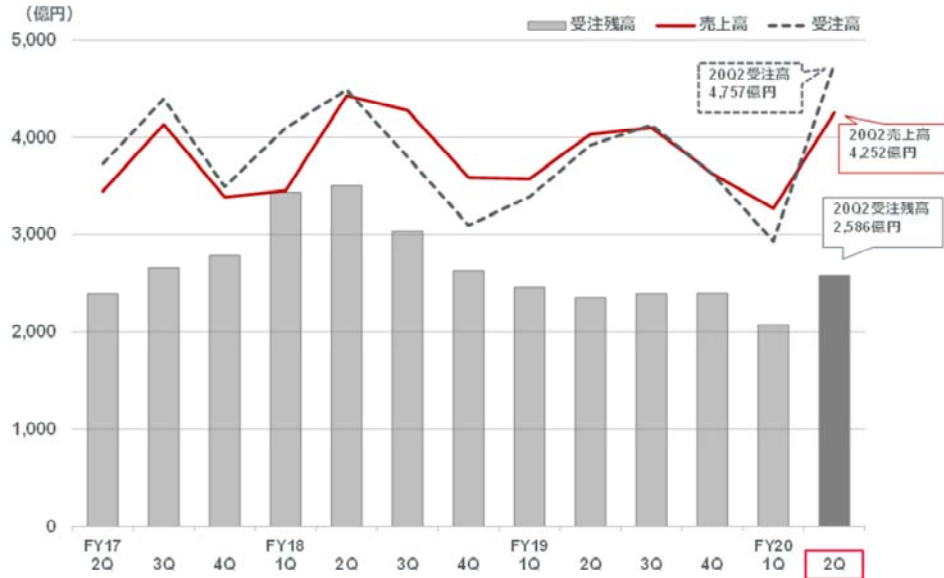
当第二四半期、当上期の業績概況でございます。

当四半期の売上高は、直前四半期との比較で、大きく増加致しました。
製品別、用途別、地域別、の全てのセグメントで増加しております。

生産高につきましても、当上期について、前年同期比で増加しております。この生産増に加えて、昨年上期には電池事業においてスマートフォン向けの設備で減損損失198億円を計上していたこともあり、当上期の営業利益も大きく増加いたしました。

売上・受注・注残推移（四半期）

COVID-19による落ち込みからの挽回により、主にスマートフォン向けやカーエレクトロニクス向けを中心に第2四半期に入り受注が急回復し、全体でBBレシオが1を超える。



Copyright © Murata Manufacturing Co., Ltd. All rights reserved.

7

四半期単位の 売上・受注・注残推移 でございます。

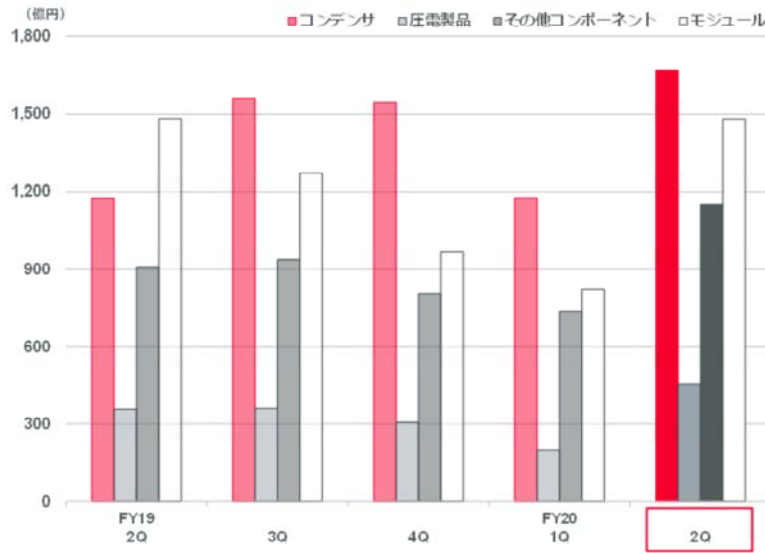
直前四半期の落ち込みから、部品需要の回復が見られ、当第二四半期の受注高は、四半期単位で過去最高の水準となりました。

19Q3は受注高が売上高をわずかに上回っていましたが、これを除くと、2年ぶりに、BBレシオが1を超えたという状況であります。

ただし、当第二四半期では、一部市場や製品などで部品取り込み・在庫確保に一部過熱感が見られ、下期には反動減の可能性も見込まれます。

製品別受注高推移

- 前年同四半期比では、コンデンサやその他コンポーネント、圧電製品が増加。主にスマートフォンやカーエレクトロニクス、PC向けで増加。
- 全社受注は、5月を底に6月以降前月比で増加傾向。



製品別の四半期単位の受注高推移でございます。

直前四半期比、前年同四半期比ともに、当四半期は全てのセグメントで受注高が増加しております。

前年同四半期では、モジュールは同水準ですが、コンデンサ・圧電製品・その他コンポーネントはFY19 2Qより増加しております。

	2019年度		第1四半期	第2四半期	2020年度		直前四半期比		前年同期比	
	上期	(%)			上期	(%)	20Q2/20Q1	(%)	20年上期/19年上期	(%)
	(億円)		(億円)	(億円)	(億円)		(億円)		(億円)	
コンデンサ	2,755	36.3	1,345	1,561	2,906	38.7	+216	+16.0	+151	+5.5
圧電製品	633	8.3	264	344	607	8.1	+80	+30.2	▲26	▲4.0
その他コンポーネント	1,910	25.2	774	1,013	1,787	23.8	+240	+31.0	▲123	▲6.4
モジュール	2,295	30.2	879	1,328	2,207	29.4	+448	+51.0	▲88	▲3.8
製品売上高計	7,593	100.0	3,262	4,245	7,507	100.0	+983	+30.2	▲86	▲1.1

製品別の売上高です。

当四半期の直前四半期との比較では全セグメントで売り上げが大きく伸びましたが、
当上期と前年同期との比較では、コンデンサを除き売上高は減少しております。

製品別売上高概況 [2019年度上期→2020年度上期]

コンデンサ (前年同期比+5.5%)	○チップ積層セラミックコンデンサ (MLCC) 自動車の生産台数減少によりカーエレクトロニクス向けで減少したものの、PC及び関連機器向けや基地局向けで増加し、全体として増収
圧電製品 (前年同期比▲4.0%)	▲圧電センサ・発振子 カーエレクトロニクス向けで減少 ○表面波フィルタ IoT機器向けやPC向けで増加
その他コンポーネント (前年同期比▲6.4%)	▲リチウムイオン二次電池 事業ポートフォリオ見直しを進めている影響でスマートフォン向けの売上が大きく減少 ○インダクタ PC向けで増加
モジュール (前年同期比▲3.8%)	▲樹脂多層基板 スマートフォン向けで減少 ○高周波モジュール スマートフォン向けで増加

自動車市場での減少、スマートフォン向け電池の減少が大きく影響しております。

モジュールについて、製品により増加減少が分れておりますが、

減少している樹脂多層基板について、価格低下による1台当たりの単額の減少が影響したものです。

コンデンサ (直前四半期比+16.0%)	○チップ積層セラミックコンデンサ (MLCC) 自動車向けの需要が大幅に回復したほか、スマートフォンやAV機器向けの需要も増加したことにより増収
圧電製品 (直前四半期比+30.2%)	○表面波フィルタ スマートフォン向けで増加
その他コンポーネント (直前四半期比+31.0%)	○リチウムイオン二次電池 電動工具向けで増加 ○インダクタ・コネクタ スマートフォン向けで増加
モジュール (直前四半期比+51.0%)	○コネクティビティモジュール・樹脂多層基板・高周波モジュール スマートフォン向けで大きく伸長

直前四半期と当四半期との比較では、全製品で大きく増加しております。

	2019年度		第1四半期	第2四半期	2020年度		直前四半期比		前年同期比	
	上期	(%)			上期	(%)	20Q2/20Q1	(%)	20年上期/19年上期	(%)
	(億円)		(億円)	(億円)	(億円)		(億円)		(億円)	
A V	346	4.6	154	207	361	4.8	+53	+34.7	+16	+4.5
通信	3,760	49.5	1,592	2,221	3,813	50.8	+629	+39.5	+53	+1.4
コンピュータ及び関連機器	1,192	15.7	680	713	1,393	18.5	+33	+4.8	+201	+16.9
カーエレクトロニクス	1,329	17.5	428	664	1,093	14.6	+236	+55.1	▲237	▲17.8
家電・その他	966	12.7	407	440	847	11.3	+33	+8.0	▲118	▲12.3
製品売上高計	7,593	100.0	3,262	4,245	7,507	100.0	+983	+30.2	▲86	▲1.1

(注) 当社推計値に基づいております

用途別の売上高でございます。

カーエレクトロニクスや家電その他は前年同期比で減少しておりますが、その他は増収となっております。当四半期の用途別売上高は、直前全四半期比では全用途で売上高が増加しております。

用途別売上高概況 [2019年度上期→2020年度上期]

AV (前年同期比+4.5%)	○果ごもり需要を背景にゲーム機向けでリチウムイオン二次電池やコンデンサが増加 ▲デジタルカメラ向けでコネクティビティモジュールやリチウムイオン二次電池が減少
通信 (前年同期比+1.4%)	○基地局向けで積層セラミックコンデンサが増加 ▲スマートフォン向けで樹脂多層基板やリチウムイオン二次電池が減少
コンピュータ及び関連機器 (前年同期比+16.9%)	○リモートワークやオンライン教育によるPC需要の高まりを受け、コンデンサやインダクタが増加 ○サーバー向けでコンデンサが増加
カーエレクトロニクス (前年同期比▲17.8%)	▲自動車の生産台数が大きく減少したことにより、コンデンサやセンサの需要が大きく減少

(注) 当社推計値に基づいております

前年同期と当上期の比較では、先ほど申し上げました通り、自動車市場の不振が大きく影響しています。

また、樹脂多層基板、スマートフォン向け電池も先程と同じ状況でございます、

AV (直前四半期比+34.7%)	○巣ごもり需要を背景にゲーム機向けでリチウムイオン二次電池やコンデンサが増加
通信 (直前四半期比+39.5%)	○スマートフォン向けにコネクティビティモジュール・樹脂多層基板・コンデンサ・表面波フィルタなどが大幅に増加
コンピュータ及び関連機器 (直前四半期比+4.8%)	○リモートワークやオンライン教育によるPC需要の高まりを受け、コンデンサやコネクティビティモジュールなどが増加
カーエレクトロニクス (直前四半期比+55.1%)	○自動車の生産台数が大きく回復したことにより、コンデンサ・センサ・EMI除去フィルタなどの需要が大きく増加

(注) 当社推計値に基づいております

当四半期の直前四半期との比較では、既に申し上げた通り、全ての用途で、部品需要の回復が見られました。

		2019年度 上期		2020年度 上期		増減	
		(億円)	(%)	(億円)	(%)	(億円)	(%)
コンポーネント	売上高	5,506	100.0	5,464	100.0	▲42	▲0.8
	事業利益	1,177	21.4	1,381	25.3	+204	+17.4
モジュール	売上高	2,295	100.0	2,207	100.0	▲88	▲3.8
	事業利益	258	11.3	217	9.8	▲41	▲15.9
その他	売上高	323	100.0	312	100.0	▲11	▲3.4
	事業利益	31	9.5	39	12.6	+9	+28.5
消去又は本社部門	売上高	▲515	-	▲463	-	+51	-
	本社部門費	▲252	-	▲322	-	▲71	-
連結	売上高	7,609	100.0	7,520	100.0	▲89	▲1.2
	営業利益	1,214	16.0	1,315	17.5	+101	+8.3

- ・ コンポーネント 表面波フィルタやリチウムイオン二次電池などの売上が減少したものの前期の減損損失(▲198億円)計上の反動による固定費減で、全体として減収増益
- ・ モジュール 樹脂多層基板の売上が減少したほか、品質関連費用を計上したことにより全体として減収減益

Copyright © Murata Manufacturing Co., Ltd. All rights reserved.

15

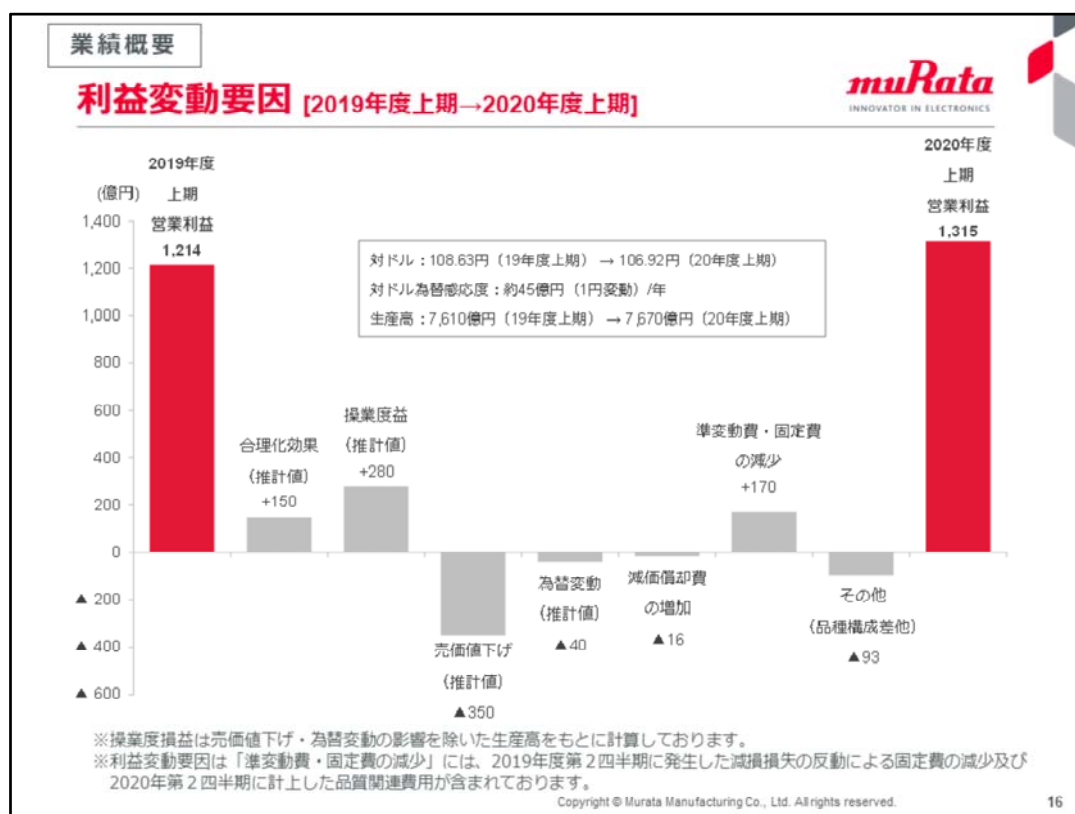
当上期のセグメント損益でございます。

繰り返しになりますが

コンポーネントの昨年上期の事業利益には、198億円の減損損失が含まれております。今期はその反動による固定費の減少で増益となっております。

モジュールセグメントにて、品質関連費用を当第二四半期で計上しております。

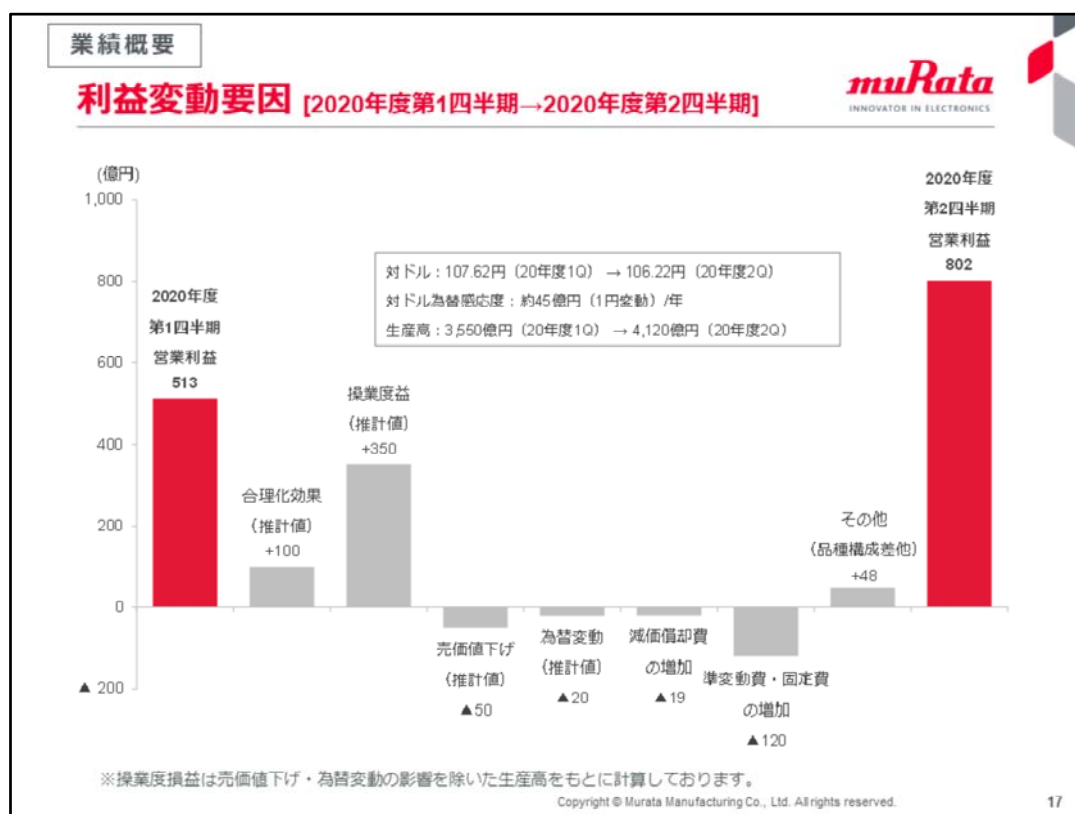
また、本社部門費につきましては、昨年上期に47億円の貴金属売却益が含まれていること、コロナウィルス影響で固定費が抑制されていることから、前年同期比で減少しております。



20年度上期営業利益の前年同期比での増減は、売値下げ▲350億円などの減益要因はあったものの、操業度益＋280億円、標準変動費・固定費の減少＋170億円などの増益要因により、＋101億円の増益となりました。

上期に計上した品質関連費用は標準変動費・固定費の減少に計上しております。また、操業度の上昇により生産関連費用も増加したものの、19年度上期に電池の減損損失が198億円があったほか、コロナウィルスの影響で販管費の一部が減少したことも、固定費減少の要因でございます。

その他品種構成他には、19年度上期に原材料の売却益(47億円)がありまして、今期はその反動が減益要因となっております。



当第二四半期の営業利益の直前四半期比での増減は、準変動費・固定費の増加▲120億円などの減益要因はあったものの、操業度益+350億円、合理化効果+100億円などの増益要因により、+289億円となりました。

準変動費・固定費の増加は、当第二四半期にモジュールで品質関連費用を計上したほか、操業度の上昇に伴い生産関連費用が増加しました。

その他品種構成他は、個別製品での限界利益率が良化した影響で増益要因となりました。

キャッシュフロー

	2019年度 上期 (億円)	2020年度 上期 (億円)	増減 (億円)
営業活動によるキャッシュフロー	1,361	1,140	▲221
投資活動によるキャッシュフロー	▲ 1,088	▲ 866	+222
財務活動によるキャッシュフロー	538	▲ 111	▲649
為替変動による影響	5	▲ 17	▲23
現金及び同等物残高	2,994	3,169	+175
フリーキャッシュフロー	273	274	+1
固定資産の取得	▲ 1,149	▲ 919	+230
減価償却費	683	698	+16

- ・ 前年同期比では増益ではあるものの、棚卸資産の増加により営業キャッシュフローは減少。
- ・ 財務活動によるキャッシュフローの減少要因は、昨年度に社債を発行したことによるもの。

Copyright © Murata Manufacturing Co., Ltd. All rights reserved.

18

営業活動によるキャッシュフローは▲221億円となりました。主に棚卸資産の増加によるものです。

投資活動によるキャッシュフローは222億円となりました。主に設備投資額の減少によるものです。

財務活動によるキャッシュフローは▲649億円となりました。主に昨年上期は社債の発行があったことに加え、増配を行ったこと、新規借入額を抑制していること、などによるものです。

当第二四半期、当上期の業績概要は以上でございます。



引き続きまして、2020年度通期の業績予想を見直しましたので、これについてご説明いたします。

部品需要予測

	2019年度 実績	2020年度 前回予想(4月)	2020年度 今回予想(10月)	(部品取り込みベース) 増減 (前年比)
スマートフォン	13.7 億台	12.4 億台	12.8 億台	▲7% ↘
PC	4.0 億台	3.9 億台	4.1 億台	+3% ↗
デスクトップ	1.0 億台	0.9 億台	0.8 億台	▲15% ↘
ノートブック	1.6 億台	1.6 億台	1.8 億台	+12% ↗
タブレット	1.4 億台	1.4 億台	1.5 億台	+4% ↗
自動車	8,300 万台	6,700 万台	7,100 万台	▲15% ↘

- ・ スマートフォン COVID-19からの回復が想定より早く、台数前提を前年度比▲7%に変更
- ・ PC リモートワークやオンライン教育を背景にノートブックやタブレットの増加が見込まれることから、同比+3%に変更
- ・ 自動車 COVID-19からの回復が想定より早く、台数前提を同比▲15%に変更

業績予想の前提としている部品需要予測でございます。

期初、PCは前年比でマイナスと見ていましたが、巣籠需要もあり、上期の需要が非常に強かった一方で、下期の需要は期初想定を据え置いております。その結果として、通期の予想を+3%に引き上げました。

スマートフォン、自動車については、下期からの回復を予想していましたが、当四半期から回復が見られることから、マイナス幅を抑えました。

	2020年度 通期予想 (前年度比)	2020年度 下期予想 (上期比)
コンデンサ	+2%程度	▲3%程度
圧電製品	▲7%程度	▲2%程度
その他コンポーネント	▲4%程度	▲4%程度
モジュール	▲7%程度	+1%程度
製品売上高計	▲3%	▲2%

部品需要予測の見直しを踏まえた、製品別の売上予想です。

下期の売り上げ予想ですが

コンデンサ、圧電製品、モジュールについては、上期の業績あるいはセット台数の動向を踏まえて、それぞれ上方修正しております。

その他コンポーネントは、住宅市場向けの定置用電池が振るわず、また事業ポートフォリオ見直しによるスマートフォン向け電池の売上減少などにより、通期では前年比▲4%、下期は上期比▲4%となる見込みで、期初想定よりマイナスで推移する見込みです。

以上のことから、コンデンサを除き、2020年度は、2019年度比で売り上げ減少となる見込みです。

用途別売上予想

	2020年度 通期予想 (前年度比)	2020年度 下期予想 (上期比)
A V	+ 13%程度	▲ 9%程度
通信	▲ 4%程度	横這い
コンピュータ及び関連機器	+ 7%程度	▲ 23%程度
カーエレクトロニクス	▲ 9%程度	+ 19%程度
家電・その他	▲ 8%程度	▲ 2%程度
製品売上高計	▲ 3%	▲ 2%

(注) 当社推計値に基づいております

用途別の売り上げ予想です。

家電その他以外の用途では、それぞれ上方修正しております。
 こちらは為替の見直しあるいは値下げを考慮した後の売上です。

	2019年度		前回予想(4月)		2020年度 通期予想	今回予想(10月)				2020年度	
	実績 (億円)	(%)	上期予想 (億円)	下期予想 (億円)		上期実績 (億円)	(%)	下期予想 (億円)	(%)	通期予想 (億円)	(%)
売上高	15,340	100.0	6,810	7,490	14,300	7,520	100.0	7,380	100.0	14,900	100.0
営業利益	2,532	16.5	970	1,130	2,100	1,315	17.5	1,185	16.1	2,500	16.8
税引前当期純利益	2,540	16.6	980	1,140	2,120	1,332	17.7	1,188	16.1	2,520	16.9
当社株主に帰属する 当期純利益	1,830	11.9	693	807	1,500	999	13.3	891	12.1	1,890	12.7
為替 (円/USD)	108.75		107.00			106.92		105.00		105.96	

- ・ 前回予想比では、COVID-19からの市況回復がスマートフォン・カーエレクトロニクス市場で早まったことや、PC関連需要が拡大したことにより、モジュールやコンデンサなどの売上増加が見込まれることから、通期売上高を上方修正。通期営業利益も生産高増加に伴う操業度益の発生などにより上方修正。
- ・ 下期はスマートフォンやカーエレクトロニクス向けで部品需要の増加が見込まれるものの、上期の旺盛な需要の反動減や、下期後半にかけてPC向け需要が一巡すると想定されることから上期比で減収を予想。

Copyright © Murata Manufacturing Co., Ltd. All rights reserved.

23

部品需要予測、製品別・用途別売り上げ見込みを踏まえた、当年度の業績予想修正でございます。

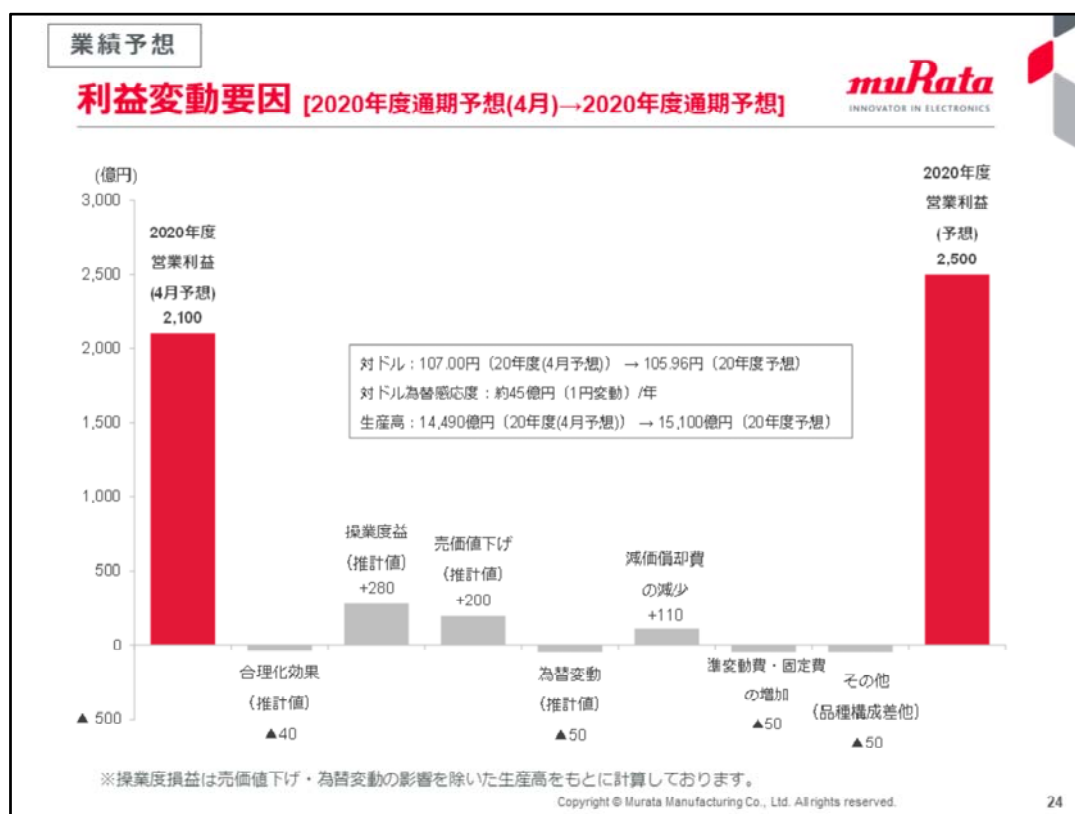
下期の為替前提は107円から105円に見直しを行っております。

前回予想に比べ、売上高600億円、営業利益400億円、当期純利益で390億円の上方修正となります。

上期実績と下期予想との比較では

売上は若干の減少となります。これは先ほど申し上げた製品別・用途別の状況を踏まえてのものです。

営業利益につきましては、増益要因として合理化効果220億円、操業度益60億円、などはあるものの、売価値下280億円、減価償却費増加70億円、為替変動40億円などの減益要因があり、営業利益としては130億円の減益を見込んでいます。

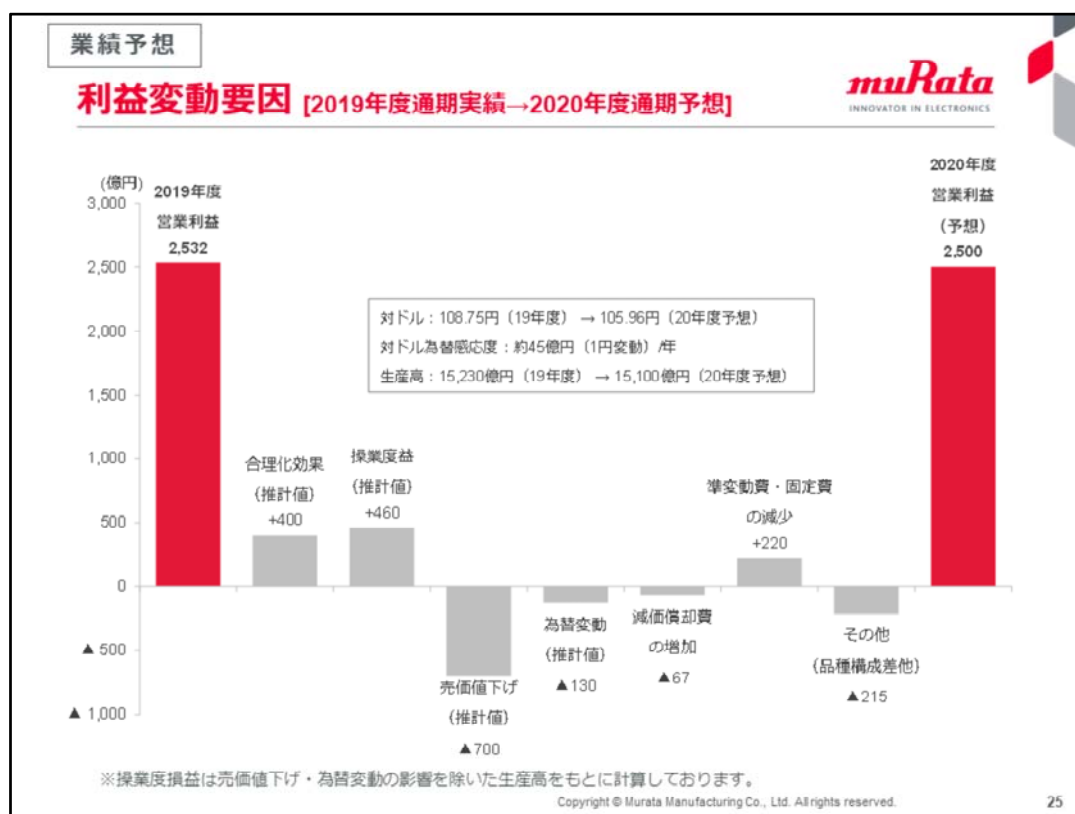


通期業績予想の見直しで営業利益が400億円増加しておりますが、これについてはこのような内容でございます。

上期はコロナウィルス影響もあり、安定供給に対するニーズが強く、売価値下げは比較的緩やかでした。
減価償却費は、4月予想段階で減価償却完了資産の見積に一部誤りがあったことや、設備投資進捗の後ろ倒し、償却開始時期のズレなどから4月予想比で減価償却費は減少しました。

また、品質関連費用の計上や操業度上昇に伴う生産関連費用の増加も見込まれます。

4月予想と今回予想での、営業利益の増減は、準変動費・固定費の増加▲50億円などの減益要因はあるものの、操業度益+280億円、売価値下げ+200億円などの増益要因により、+400億円となる見込みです。



通期見直し後の予想と前期との営業利益の比較でございます。

合理化効果、操業度益はございますが、値下、為替、減価償却費などで、▲32億円を見込みます。

業績予想の前提

	2020年度 上期実績	2020年度 下期予想	2020年度 通期予想
減価償却費	698 億円	772 億円	1,470 億円
研究開発費	510 億円	540 億円	1,050 億円
設備投資額	840 億円	1,160 億円	2,000 億円
為替レート(USD)	106.92 円/USD	105.00 円/USD	105.96 円/USD
為替レート(EUR)	121.29 円/EUR	122.00 円/EUR	121.65 円/EUR

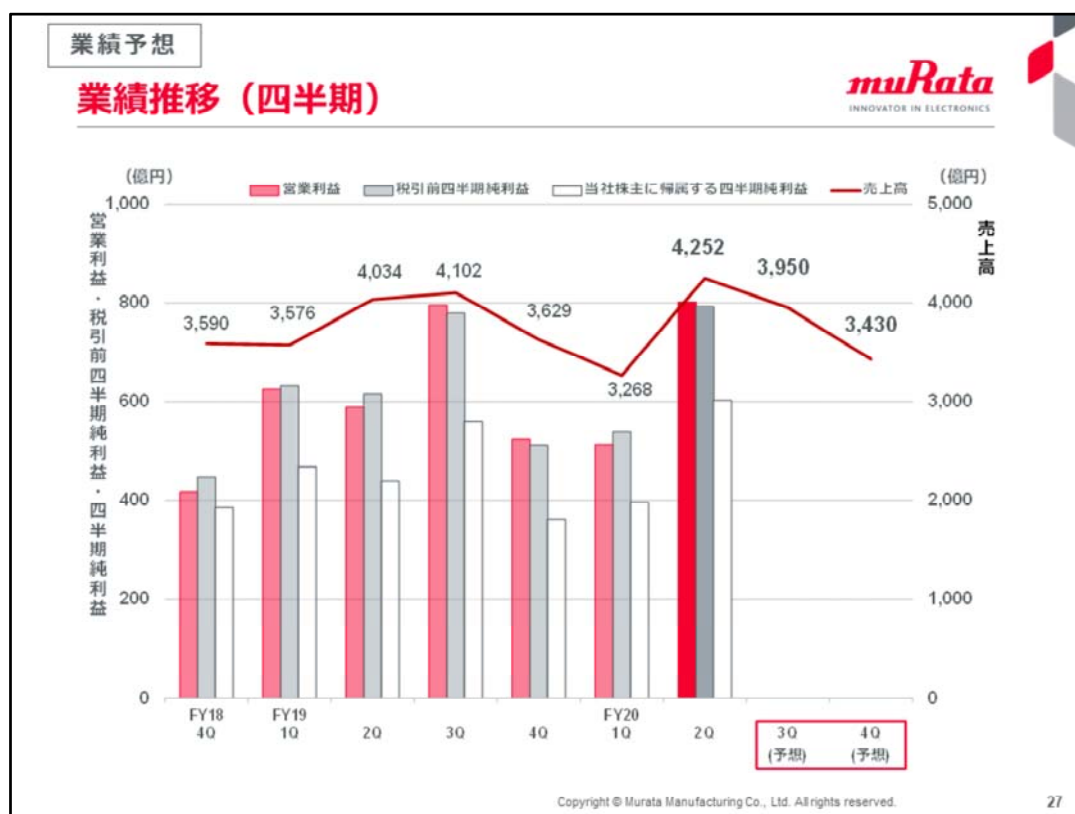
【参考 対ドル為替感応度】売上：約90億円(1円変動/年) 営業利益：約45億円(1円変動/年)

なお、今回予想では、春先に世界各国で行われた大規模な経済活動制限措置が再度実行されないことを前提としております。

業績予想の前提でございます。

減価償却費、研究開発費は4月予想比で、それぞれ、110億円、50億円引き下げました。

設備投資につきましては、通期予想を据え置き、為替については、現状の為替水準への見直しを行いました。



Q3、Q4の売り上げにつきましてはこのような推移を予想しております。

また、当期の四半期別の製造高につきましては
第一四半期が3,550億円、第二四半期が4,120億円となりました。第三四半期は3,900億円、第四半期は3,530億円を予想しております。

コンデンサの操業度については、27日稼働ベースで
第二四半期は90～95%、下期についても同水準と見込んでおります。



- 2020年度（2021年3月期）の配当（予定）
1株当たり年間110円
（中間配当55円／期末配当55円）
※年間配当を前年度比13円増配

- 2019年度（2020年3月期）の配当
1株当たり年間97円
（中間配当47円／期末配当50円）

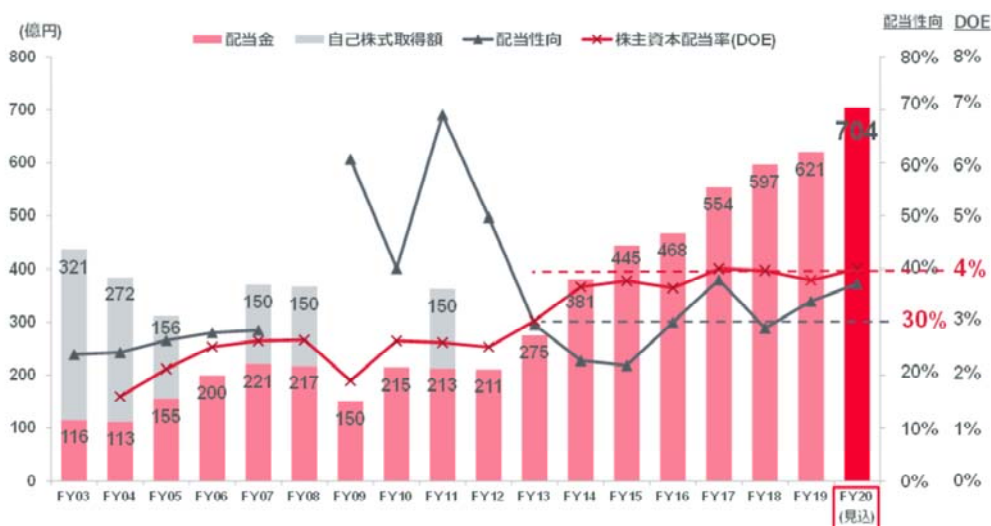
※当 配当は現時点での事業環境予測及び業績予想に基づくものであります

期初の配当予想から変更はございません。

株主還元推移

muRata
INNOVATOR IN ELECTRONICS

- **配当** 従来から配当の安定的な増加を基本方針としており、今回新たな指標としてDOEを採用。
中期的に配当性向30%程度を目安にDOE4%以上を実現
- **自己株式取得** 従来から株主還元の手段として、資本効率の改善を目的に適時実施



Copyright © Murata Manufacturing Co., Ltd. All rights reserved.

29

修正後の業績見通しに基づく、配当金、配当性向、DOE、でございます。

業績予想の見直しはございましたが、従来通りの株主還元方針の範囲であり、配当予想の変更は不要と認識しております。

説明は以上でございます。ご清聴ありがとうございました。



当資料に記載されている、当社又は当社グループに関する見通し、計画、方針、戦略、予定、判断などのうち既に確定した事実でない記載は、将来の業績に関する見通しです。将来の業績の見通しは、現時点で入手可能な情報と合理的と判断する一定の前提に基づき当社グループが予測したものです。実際の業績は、さまざまなリスク要因や不確実な要素により業績見通しと大きく異なる可能性があり、これらの業績見通しに過度に依存しないようお願いいたします。また、新たな情報、将来の現象、その他の結果に関わらず、当社が業績見通しを常に見直すとは限りません。実際の業績に影響を与えるリスク要因や不確実な要素には、以下のものが含まれます。(1)当社の事業を取り巻く経済情勢、電子機器及び電子部品の市場動向、需給環境、価格変動、(2)原材料等の価格変動及び供給不足、(3)為替レートの変動、(4)変化の激しい電子部品市場の技術革新に対応できる新製品を安定的に提供し、顧客が満足できる製品やサービスを当社グループが設計、開発し続けていく能力、(5)当社グループが保有する金融資産の時価の変動、(6)各国における法規制、諸制度及び社会情勢などの当社グループの事業運営に係る環境の急激な変化、(7)偶発事象の発生、などです。ただし、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。

当資料に記載されている将来予想に関する記述についてこれらの内容を更新し公表する責任を負いません。

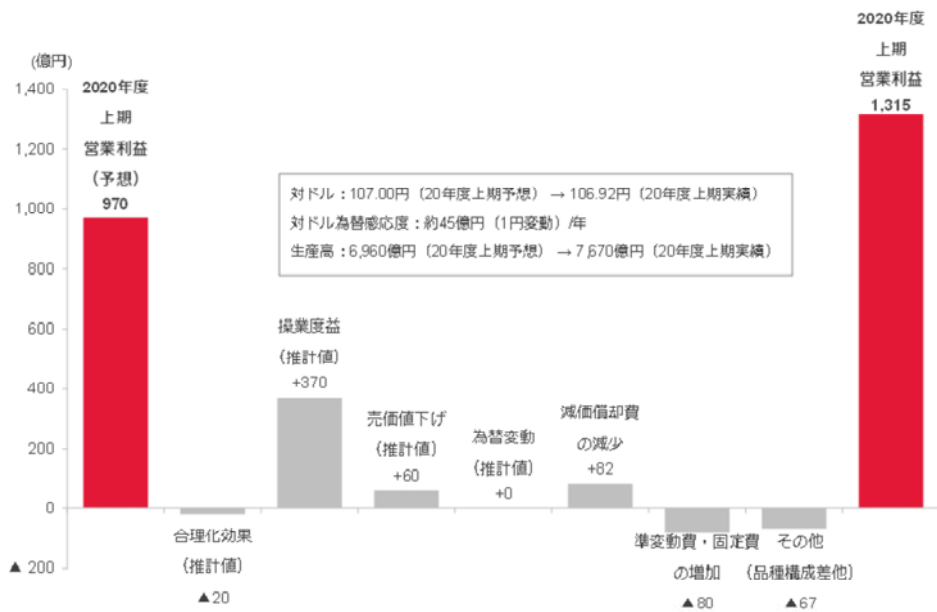
補足

muRata
INNOVATOR IN ELECTRONICS

補足

利益変動要因 [2020年度上期予想(4月)→2020年度上期実績]

muRata
INNOVATOR IN ELECTRONICS



※営業度損益は売値値下げ・為替変動の影響を除いた生産高をもとに計算しております。

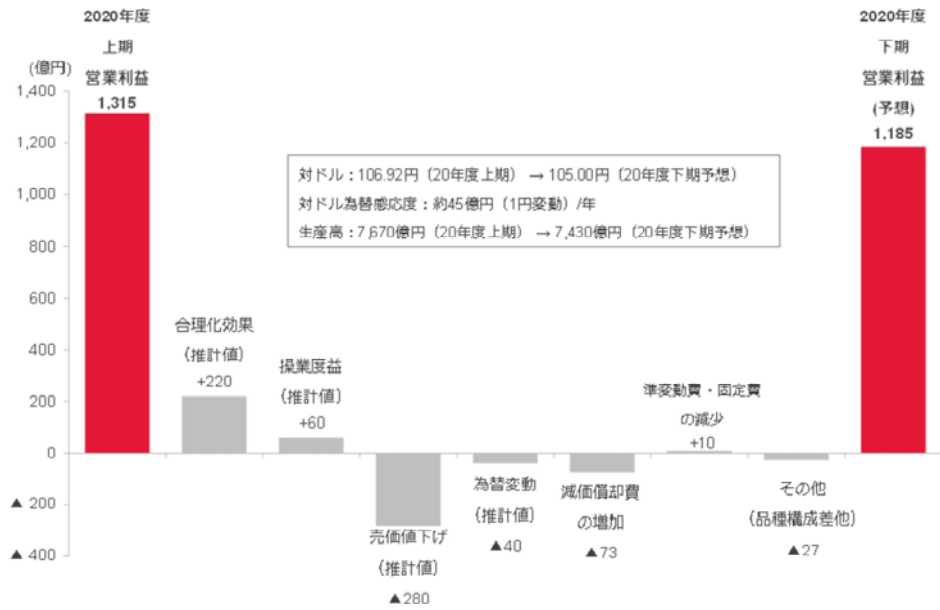
Copyright © Murata Manufacturing Co., Ltd. All rights reserved.

32

補足

利益変動要因 [2020年度上期→2020年度下期予想]

muRata
INNOVATOR IN ELECTRONICS



※操業度損益は売値値下げ・為替変動の影響を除いた生産高をもとに計算しております。

Copyright © Murata Manufacturing Co., Ltd. All rights reserved.

33

補足

財務データ(1/3)

muRata
INNOVATOR IN ELECTRONICS



(億円)

	2017年度			2018年度				2019年度				2020年度	
	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
売上高	3,447	4,135	3,387	3,455	4,429	4,276	3,590	3,576	4,034	4,102	3,629	3,268	4,252
営業利益	587	451	176	482	913	856	417	626	588	795	524	513	802
税引前四半期純利益	674	426	154	499	928	797	449	632	616	780	513	539	792
当社株主に帰属する 四半期純利益	579	294	256	390	693	601	385	468	439	561	362	396	603
設備投資	716	899	839	777	788	727	624	529	620	814	854	402	438
減価償却費	329	398	413	269	305	323	347	336	346	357	364	340	359
研究開発費	229	238	257	260	243	251	262	261	253	247	264	248	262
対ドルレート(円)	111.04	112.98	108.30	109.07	111.46	112.90	110.21	109.90	107.35	108.76	108.97	107.62	106.22

補足

財務データ(2/3)

muRata
INNOVATOR IN ELECTRONICS



		2017年度			2018年度				2019年度				2020年度	
		2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
製品別売上高	コンデンサ	1,127	1,269	1,139	1,265	1,472	1,583	1,423	1,377	1,378	1,457	1,382	1,345	1,561
	圧電部品	410	389	346	381	385	321	300	314	319	336	323	264	344
	その他コンポーネント	730	1,055	892	938	1,083	992	909	924	986	928	792	774	1,013
	コンポーネント計	2,267	2,712	2,377	2,583	2,939	2,896	2,632	2,615	2,683	2,722	2,498	2,382	2,918
	モジュール	1,172	1,414	995	865	1,482	1,371	950	952	1,343	1,370	1,121	879	1,328
	売上高計	3,439	4,126	3,372	3,448	4,421	4,266	3,582	3,567	4,025	4,092	3,619	3,262	4,245
用途別売上高	A V	172	195	162	173	197	175	150	169	177	148	116	154	207
	通信	1,900	2,311	1,619	1,574	2,355	2,133	1,546	1,639	2,121	2,261	1,900	1,592	2,221
	コンピュータ及び関連機器	519	527	513	564	653	680	595	586	606	581	532	680	713
	カーエレクトロニクス	475	533	547	596	630	660	685	668	661	662	644	428	664
	家電・その他	372	560	531	541	586	619	606	506	460	439	426	407	440
	売上高計	3,439	4,126	3,372	3,448	4,421	4,266	3,582	3,567	4,025	4,092	3,619	3,262	4,245
地域別売上高	南北アメリカ	340	563	390	389	763	751	456	472	579	458	387	286	487
	ヨーロッパ	235	292	309	329	322	332	415	361	317	304	338	212	318
	中国	2,010	2,344	1,756	1,810	2,315	2,161	1,657	1,727	2,081	2,372	1,921	1,988	2,441
	アジア・その他	607	590	615	603	664	642	684	630	696	608	646	487	677
	海外計	3,192	3,789	3,070	3,131	4,064	3,886	3,212	3,190	3,673	3,743	3,293	2,972	3,923
	日本	247	337	302	318	357	380	369	378	353	349	326	289	322
売上高計		3,439	4,126	3,372	3,448	4,421	4,266	3,582	3,567	4,025	4,092	3,619	3,262	4,245

Copyright © Murata Manufacturing Co., Ltd. All rights reserved.

35

補足

財務データ(3/3)

muRata
INNOVATOR IN ELECTRONICS



(億円)

		2017年度			2018年度				2019年度				2020年度	
		2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
コンポーネント	売上高	2,364	2,824	2,480	2,686	3,056	2,982	2,676	2,717	2,788	2,852	2,625	2,456	3,008
	事業利益	569	721	446	626	875	849	772	675	501	689	631	589	792
モジュール	売上高	1,172	1,414	995	865	1,482	1,371	950	952	1,343	1,370	1,121	879	1,328
	事業利益	121	▲157	▲166	▲5	169	140	▲159	79	179	219	17	69	148
その他	売上高	240	201	242	244	336	208	236	169	154	140	129	144	168
	事業利益	27	22	27	29	34	22	21	15	16	12	15	19	20
消充又は本社部門	売上高	▲329	▲304	▲330	▲340	▲445	▲285	▲272	▲264	▲251	▲260	▲247	▲211	▲252
	本社部門内	▲130	▲135	▲131	▲168	▲165	▲155	▲216	▲143	▲108	▲125	▲139	▲164	▲159
連結	売上高	3,447	4,135	3,387	3,455	4,429	4,276	3,590	3,576	4,034	4,102	3,629	3,268	4,252
	営業利益	587	451	177	482	913	856	417	626	588	795	524	513	802

Copyright © Murata Manufacturing Co., Ltd. All rights reserved.

36

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)関連

＜当社グループにおける感染者の発生状況＞（2020年7月1日以降）

拠点	補足
村田製作所	感染者確認日：7月23日・7月30日・10月6日
金沢村田製作所仙台工場(宮城県)	感染者確認日：10月3日
村田製作所野洲事業所(滋賀県)	感染者確認日：9月17日・9月20日
福井村田製作所(福井県)	感染者確認日：8月25日
富山村田製作所(富山県)	感染者確認日：8月5日
岡山村田製作所(岡山県)	感染者確認日：7月15日 7月15日から7月16日まで当該拠点の操業を停止
村田製作所八日市事業所(滋賀県)	感染者確認日：7月8日 7月8日から7月10日まで当該拠点の操業を停止

当社およびグループ会社は、今後も地域住民の皆さま、お客さま、お取引先さま、および全従業員の健康と安全を最優先に考え、政府の方針や行動計画に基づき、引き続き感染予防・感染拡大防止に取り組んでいきます。

